

# ZEPHYROS

ゼフェロス No.25

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

ISSN1342-8071



国立西洋美術館長 青柳 正規

---

## 実学としての美術史学

---

実学という言葉がいつから用いられるようになったのか、きちんと調べたことはない。しかし、本来の学問、つまり学問のための学問に比べて実用の性格がつよい工学や農学など、純粋学問よりも一段劣る学問であることをもととは含意していたようで、アカデミズムと権威主義が大手を振っていた明治後半から使われるようになったのではないだろうか。社会に貢献しうる学問として使用されている現代の「実学」とは大きく違っており、この推移に学問のあり方、あるいは学問に対する社会の期待がいかに変わってきたかを見ることができる。

実学に対して虚学という言葉がある。といっても広辞苑のような国語辞典に採録されているわけではないので、俗語の部類に入るのであろう。しかし、言葉にうるさいはずの文学部の教師たちがしばしば口にする言葉である。もちろん実学

同様、その起源を調べたわけではないが、実学が評価されるにつれ浮上してきた言葉である。

「虚学」を専売特許のごとく使用する文学部の教師たちの引用例を見ると、ただたんに「実社会にはどうも貢献しようもない学問」という意味だけで使用しているわけではない。実学の反対語であることを明確にしつつも、本来の学問は社会貢献を超越したものではないか、森羅万象を研究する理学とおなじように、深遠なる真善美を探求することこそ、長い眼で見れば人類に貢献するはずであるという切々たる主張がこめられているようである。とはいっても昭和20年代、30年代がすぎると、理系の要素還元主義と同様、研究対象の細分化という激流のなかで、このような主張さえ消されてしまったのである。つまり、実学でなければ、学問ではないという風潮が強まるなか、虚学はただたんに自らを卑下することにより逆風をしのごうとする弱者の処世術の一環として使用されているかの観がある。そうであるからこそ近年になって、虚学を脱しようとして、応用倫理学、環境倫理学のような分野が誕生しつつある。

虚学を代表する学問領域に人文学もしくは人文科学がある。社会科学と密接な関係を有する社会学や理学との関係が重要な実験心理学などをのぞいた、哲学、史学、文学を中心とする人文学である。美術史は東洋史や考古学とともに史学を構成するその一分野である(科学研究費の分類では哲学に属するが、美学に引きずられてそう分類されているのにすぎない)。史学を構成するさまざまな分野は、それぞれに研究対象の範囲が明らかにされている。西洋、東洋、日本といった地理的区分であったり、研究資料をモノに限定する考古学のようにである。

史学に含まれる美術史はどのような輪郭をもっているのだろうか。おそらく、異口同音に「美術の歴史」という答えがかえってくるであろう。では、美術とはなにか、という質問にはどう答えるのだろうか。美術史を学んできた筆者にとってもなかなかの難問である。光琳、応挙やルネサンス三大巨匠の作品が美術に属することは明白であるが、弟子たちの作品のどの範囲までが美術作品といえるのであろうか。かれらの薫陶くんとうを受けたことが明らかであれば、すべての弟子が美術家といえるのであろうか。すぐには答えを出しにくい問題であり、美術の輪郭、したがって美術史の輪郭は曖昧としているのである。美術史の成立要件には価値判断が介在するきわめて特異な、いいかえれば脆弱ぜいじやくな学問分野なのである。研究対象が曖昧かつ流動的であるからこそ、

# 実学としての美術史学

旺盛な研究活動による対象範囲の事実上の設定しかない。封建領主の安堵された領地というよりも、声高に領有を主張する新興勢力の実質的支配地といったところである。

そのようなことを考えていたとき、突如として美術館に身を置くことになった。大学という防御施設にまもられたなかでの教育研究活動に携わる者が、美術史という虚学のなかでもとくに脆弱な学問分野を武器として公共サービスを行う施設に転勤したのである。転勤後半年ほどしか経過していないが、大学における美術史の研究と美術館における美術史による調査研究とは、社会という大パトロンを前提にするなら、おおきく異なっていることが判明した。美術館においては、作品研究そのものが真贋からはじまり作家や制作年代の同定などが直接的に所蔵作品の評価に反映するといった切実な課題につねにさらされており、虚学云々に耽溺<sup>たんでき</sup>するような余裕がないということ、いかえるなら、公共サービスを実施するうえで要求される課題にきちんと応えなければならない社会的需要があるということである。その意味で、美術館の美術史は、これまで以上に実学としての役割を要請されるのであり、その期待に応えていくことこそ、美術館の存在を強化させるひとつの方策といえるのではないだろうか。

(館長 青柳 正規)



常設展示室

## 「いろいろメガネPart1—あなたの見かた 教えてください」—中間報告

the national museum of western art, tokyo



ギュスターヴ・クールベ《罾にかかった狐》 松方コレクション 1860年

「この作品に、あなたならどんな題名をつけますか？」

皆さんも常設展示室の各所で、この掲示をご覧になったことがあるかもしれません。「君の名は？」というこのプログラムは、「いろいろメガネ」に関連して今年の7月から行われています。毎月3点、常設展示室の作品から題名のプレートははずし、作品をよく見て、その場に用意したノートにそれぞれが考えた題名を書いてもらうものです。

そもそも作品の題名は、宗教作品のように伝統的な主題がそのまま題名になる場合、作家がつける場合、所有者がつける場合など、その決まり方は一様ではありません。今回は、来館者の皆さんが名付け親となって、その作品にふさわしいと思う題名を考えるプログラムです。ノートに書かれた題名を見ると、人それぞれに注目している点、考えていることの違いが見えてきます。

この作品(写真参照)にも様々な題名が付けられました。「罾」「叫び」のように画面の出来事を描写しているものや、きつねの気持ちになって一言「痛い!」「やられた!」「不覚」「助けて!」「おかあさん」、あるいは見ている側の諦観ていかんが入ったような「運命」「絶望」などです。また、視点を変えてちょっと諧謔的かいぎやくに「今晚のおかず」という題名もありました。あなたの考えと同じものはありましたか?「君の名は?」は、来年の5月まで継続して行われています。皆さんもどうぞご参加ください。

また、「いろいろメガネ」に関連した「あなたがつづるこの1点」へもたくさんのご応募をいただきありがとうございました。応募作品は審査の後、来年2月から常設展示室の作品の横に掲示して皆さんにもご覧いただく予定です。

(主任研究官 寺島洋子)

## 2006年 西洋美術館オリジナル カレンダーが完成!

2003年版より制作している西洋美術館オリジナルカレンダー。サイズを少し小さめにより使いやすくなりました。今回は所蔵作品の中から“花”がモチーフとなっている絵画をセレクト。自宅で気軽に美術鑑賞してみるのも…

1,050円(税込)



## 「考える人」が ボトルストッパーに変身

ボトルの上に「考える人」?!まさかロダンもこんな使われ方をするなんて思わなかったはず。人より一歩先の新美術鑑賞。ワイン、日本酒、何に合わせるかはあなた次第です。

1,050円(税込)

## 「地獄の門」が グッズになって登場

当館に所蔵してある数あるロダン作品の中で、かねてからお客様より要望の多かった「地獄の門」が、今回カードスタンドとしてお目見えすることになりました。あなたはどんなカードを立てますか?

1,050円(税込)



当館ミュージアムショップにて販売中。

上記3点以外にもここでしか取り扱っていないミュージアムグッズ、過去の展覧会カタログ、美術書籍がございます。是非お立ち寄りください。(ショップは観覧券なしで自由に御利用いただけます。)

●問い合わせ(03)5685-2122

# 展示カレンダー [企画展示/常設展示] 2005年11月～2006年4月

■ 休館日    ≡ 土・日・祝日

11 NOVEMBER	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	キアロスケーロールネサンスとバロックの多色木版画 (企画展示室) 10月8日(土)～12月11日(日)																													
	《ローマの景観》:ピラネージのまなざし (新館2F版画素描室) 10月8日(土)～12月11日(日)																													
	Fun with Collection 2005 (常設展示室) いろいろメガネPart1-あなたの見かた教えてください																													

12 DECEMBER	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	キアロスケーロールネサンスとバロックの多色木版画 (企画展示室) 最終日 12月11日(日)																														
	《ローマの景観》:ピラネージのまなざし (新館2F版画素描室) 最終日 12月11日(日)																														
	Fun with Collection 2005 (常設展示室)																														

年末年始  
休館  
12月28日  
(水)  
翌年  
1月1日  
(日)

1 JANUARY	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	● 1月2日(月)～1月9日(月)開館 (常設展示)																														
	● 1月10日(火)～1月30日(月) 展示替え及び改修工事のため全館休館																														
	Fun with Collection 2006																														

2 FEBRUARY	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28		
	Fun with Collection 2006 (常設展示室)																													
	いろいろメガネPart2-みんなの見かた紹介します																													

3 MARCH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	● ロダンとカリエール (企画展示室) 3月7日(火)～6月4日(日)																														
	● 19世紀フランス、芸術家のアトリエ (仮称) (新館2F版画素描室) 3月7日(火)～6月4日(日)																														
	Fun with Collection 2006 (常設展示室) いろいろメガネPart2-みんなの見かた紹介します																														

4 APRIL	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	● ロダンとカリエール (企画展示室) 3月7日(火)～6月4日(日)																													
	● 19世紀フランス、芸術家のアトリエ (仮称) (新館2F版画素描室) 3月7日(火)～6月4日(日)																													
	Fun with Collection 2006 (常設展示室) いろいろメガネPart2-みんなの見かた紹介します																													

※展覧会名、会期、内容等は変更されることがあります。

## §お知らせ§

～美術館・博物館へ行こう～ A Day in the Museum  
1月2日(月)は、国立西洋美術館、東京国立博物館の常設展観覧が無料となります。  
主催:国立西洋美術館、東京国立博物館、NPO法人美術ファンクラブ

## 常設展示 (本館・新館)

中世末期から20世紀初頭にかけての西洋絵画とロダンの彫刻を展示しています。

## 国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間  
通常…午前9時30分～午後5時30分(ただし、秋の企画展閉会日以降の開館日から春の企画展開催日までの開館期間中=午前9時30分～午後5時)  
毎週金曜日…午前9時30分～午後8時(入館は閉館の30分前まで)
- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日) 年末年始(12月28日～翌年1月1日)
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日と文化の日(11月3日)
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600  
<http://www.nmwa.go.jp/>

※ 誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシャ神話の神々のひとり、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色ざまざまの花々を運ぶ春の風をさします。

# ZEPHYROS

ZEPHYROS 第25号

編集・発行 国立西洋美術館/平成17年11月20日(年4回発行)  
協力 (財) 西洋美術振興財団  
印刷 (株) アイネット